

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司海青 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。特に、書く力を問う問題や話す・聞く力を問う問題において基礎基本の定着が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・日常生活で使われている慣用句の問題において、意味を理解し使うことができていた。	
	努力が必要な問題	・主語と述語との関係に注意して文を書くことや適切な敬語の使い方を問う問題は正答率が低かった。	

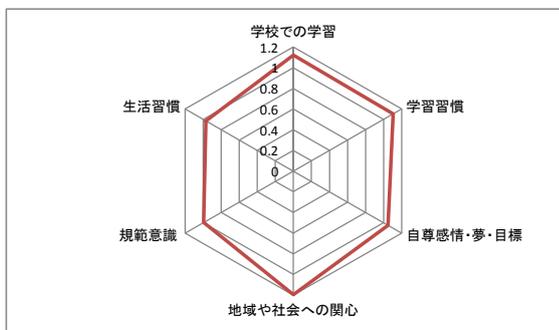
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。解答を選択して答える問題においての正答率は全国平均のそれを上回っているが、記述式の解答については課題があり、今後の指導が必要である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・話し合いの中での発言の意図をとらえ、適切な解答を選択する問題においての正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題や自分の考えをまとめる問題の正答率が非常に低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。 ・「量と測定」の領域では、全国平均の正答率を10ポイントほど上回ったが、「数と計算」の領域では、全国平均の正答率に及ばなかった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率は、全国平均より20ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	・小数の除法についての理解を問う問題においては正答率が4割と低く、除法についての確実な定着を図る必要がある。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均を上まわっているが、半分の問題において無解答が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・4の段と5の段の二つの数の和が、9の段の数になるわけを式に表して考える問題の正答率が、全国平均のそれに比べ5ポイント以上上回った。	
	努力が必要な問題	・グラフが、何に着目しているかを解釈し、考えを記述する問題において正答した児童の割合が3割程度であった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的に、全国平均をやや上回った。 ・学習指導要領A区分(物質・エネルギー)の問題は、全国平均を上回ったが、B区分(生命・地球)の問題は全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくなった問題	・流れる水の働きによる堆積や浸食について問う問題において、正答率が全国平均を10ポイント程度上回った。	
	努力が必要な問題	・適切な野鳥の観察方法や人の腕や鳥の羽が曲がる仕組みについて正しい回答を選択する問題で正答率が全国平均を下回った。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことや「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」ことができると答える児童は全国平均よりも多く見られた。家庭での様子を見てみると、1日に1時間以上勉強していると答える児童が全国平均よりも多く見られるが、毎日、同じくらいの時間に寝ていると回答する児童の数が全国に比べて低い傾向にある。家庭での規則正しい生活習慣の見直しを児童と確認すると同時に、家庭に対しても協力を呼びかけていく必要がある。 ・住んでいる地域の行事に参加していると回答する児童の割合が高いが、地域や社会で起きている問題や出来事に関心があるかという質問に、肯定的な回答をする児童は全国平均と同程度であるが、決して多くはなかった。今後は、家庭と連携をとり、児童の地域や社会への関心がより高まるように努めていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎「話し合う活動」と「書く活動」に重点をおいた指導を行う。
- ・話し合いや表現活動の手だてとして、電子黒板やタブレット等のICT機器を活用する。
- ・各学級に「さあ対話しよう」の掲示を継続し、「対話」を重視した授業を展開する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習の定着を図る。
- ・家庭学習ウィークを設定したり、家庭学習ノートを校内の掲示板上で紹介したりして、学校と家庭が連携して家庭学習習慣の定着を図る。
- ◎基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・保護者への「お知らせプリント」や児童への「家庭学習計画カード」の配布とうにより、家庭学習及び生活習慣の見直しを図る。